



学校の中の発達障害

学校は、集団活動が多く、そのためルールもいろいろと設定されています。その中で発達の特徴を理解し、個別にサポートしていくことは、決して簡単ではありません。講座では、保護者と教職員が協力して「発達障害の子の学校生活をサポートするコツ」等を学びました。(受講者 322名)

〈研修内容〉

- 講 義
演 題 「学校の中の発達障害」
講 師 信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室
教授 本田 秀夫 氏



○質疑応答



受講者アンケートから

- 発達障害の特性、支援の考え方を整理できた。「発達障害の子供たちにとって学校が最大の難関」という冒頭の先生の一言が印象的だった。(一般)
- インクルーシブ教育が様々な言われる中で本田先生が言われる発達障害のお子さん目線での支援をどうしていくかをより考える必要があると感じました。(学校教職員)
- 発達障害の子ども理解は、学校現場として喫緊の課題であると感じています。子どもに関わるみんなで、こうあるべき、これが普通、平均に合わせる等の意識の改革を図りたいと思いました。(一般)
- マジョリティの社会でのマイノリティの立ち位置を考えていくという言葉が印象的で納得した。(学校教職員)
- 発達障害をもっているとわかっていても、「ここまではできるようになってほしい」「がんばってほしい」と思うってしまうことがあるなあと反省しています。子どもに頑張らせる支援計画をたてるのではなく、こどもたちのできることや好きなことを起点にして、私たちがどう支援していけるかを考えていきたいと思います。(学校教職員)
- 発達障害の人たちの過剰適応について勉強になりました。川柳2つや「みんなは発達障害のひとたちほど我慢していない」など、刺さる言葉が多かったのでたくさん考えさせられた一日でした。学校がどの子にとっても楽しい場所であるよう日々考え実践していきたいと思います。(学校教職員)